

3) 昭和から平成

昭和4年には、幸久村村長をはじめとする久慈川全面改修運動が展開され、久慈川の抜本的な治水対策への機運が盛り上がった。昭和8年に久慈川改修期成同盟会が結成され、本格的な陳情が熱心に行われた。とくに昭和13年(1938)の台風による洪水は未曾有の規模のものになった。このときの降水量(242mm, 山方上流)は、記録のある明治43年(1910)以降では久慈川における最大降雨として記録されている。昭和13年、久慈川改修予算が採択されて直轄事業としての取り組みが始まった。同年太田町に内務省東京土木出張所久慈川改修事務所が設置され、久慈川31km、玉川、浅川、山田川、里川の支流延長24km、計55kmの改修を16年間で実施するという計画が策定された。

表 3-3 昭和以降の主な水害

| 年月(西暦) | 被害状況 |
|--------------------|---|
| 昭和 3. 5.17 (1928) | 久慈川、里川を中心に洪水 |
| 昭和 3. 8. 1 (1928) | 久慈郡佐都村を中心に洪水 |
| 昭和 3. 8. 9 (1928) | 久慈川を中心に洪水 |
| 昭和 4. 8. 2 (1929) | 大洪水 |
| 昭和 5. 8. 3 (1930) | 大洪水、久慈川沿岸 1,530 町歩冠水 |
| 昭和 6.10. 7 (1931) | 常陸太田地方風水害 |
| 昭和 6.11. 4 (1931) | 常北電鉄水害のため 15 日間にわたり不通 |
| 昭和 7.11.15 (1932) | 暴風雨、太田東田園水稲作流出、被害甚大 |
| 昭和 7. (1932) | この年の暴風雨で佐郡尋常小学校校舎倒壊 |
| 昭和 8. 8.16 (1933) | 久慈川中下流域大洪水 |
| 昭和 9. 11.2 (1934) | 国勢調査当日大風水害あり。久慈郡の被害 325,000 円、被害面積 36,000 余反 |
| 昭和 10. 9.23 (1935) | 常陸太田地方大風水害、御内帑金下賜 |
| 昭和 11. 2. 9 (1936) | 常北電鉄、風水害のため 6 日間、自動車 2 日間不通 |
| 昭和 13. 6.28 (1938) | 台風のため久慈川、里川決壊、太田近辺大洪水。常北電鉄 5 日間不通。冠水面積 12 万 4 千 5 百町歩 |
| 昭和 16. 7.11 (1941) | 久慈郡幸久村を中心に大洪水。 |
| 昭和 16. 7.25 (1941) | 久慈郡幸久村付近大洪水。 |
| 昭和 16.10 (1941) | 洪水のため常北電鉄 2 日間不通。 |
| 昭和 22. 9.15 (1947) | キスリ台風により里野宮堰流出。日立にて死者 27、被災者 1,357 名。日立電鉄 4 日間不通。死者 74 名、流出家屋 194 戸、全・半壊 440 戸、床上・床下浸水 21,509 戸 |
| 昭和 23. 8.30 (1948) | アイわ台風により久慈川地域洪水。 |
| 昭和 24. 8.31 (1949) | 行い台風により久慈川、里川堤防決壊。太田南部地区水没、被害甚大。 |
| 昭和 25. 6.14 (1950) | 久慈郡幸久村付近大洪水。 |
| 昭和 41. 6. 6 (1966) | 台風 4 号により小沢郷風水害、日立電鉄 6 日間不通。 |
| 昭和 57. 9.11 (1982) | 台風 18 号により久慈川流域洪水。浸水家屋 3 戸。 |
| 昭和 61. 8. 5 (1986) | 台風 10 号により、榊橋付近で水位が H.W.L を越える。浸水戸数 250 戸、浸水面積 1,820ha (宅地浸水面積 4.5ha)、直接被害額約 12 億円(直轄管理区間内の集計) |
| 平成 3. 9.18 (1991) | 台風 18 号により久慈川流域降雨。榊橋付近で水位が H.W.L を越える。浸水家屋 92 戸 |
| 平成 11. 7.14 (1999) | 停滞前線により、富岡、榊橋、常井橋で警戒水位を超え、無堤箇所より浸水、直轄管理区間の浸水面積は 218ha、床下浸水 8 戸、榊橋付近の低水護岸被災 |

まず昭和13年、里川の合流点付近での掘削・築堤工事から始められ、次いで久慈川本川の築堤が行われた。その後戦争による一時中断があったものの、戦後の昭和22,23年の台風時の災害復旧も重なり、戦後に入って工事はにわかに活気を呈した。

昭和23年、本川右岸額田地先の掘削・築堤を行い、昭和26～27年神崎村地先の里川背割堤が完成し、里川筋の改修は終了した。

その後昭和28年から昭和30年にかけて中流部の改修に着手し、木崎村門部地先の大湾局部のショートカット、掘削、築堤が行われ、昭和32年に捷水路しょうすいろの床固とこがため工事が行われた。昭和33年以降は久慈川上流部で工事が行われ、昭和44年までに栄橋から富岡橋までの暫定堤防が概成した。

昭和44年以降は、改修の主眼は最下流部に移され、昭和47年には榭橋から久慈大橋までの右岸に暫定堤防を完成させた。また同時期44年から53年までは河口部の付替工事を実施した。久慈川の河口付近の河道は、かつてほぼ直角に折れ曲がり、海岸に発達する砂丘沿いに2km北上して海に注いでいた。このため、洪水時には流水の疎通を著しく阻害し、河口付近一帯は出水ごとに冠水し、その被害は上流の常陸太田市にまで及んでいた。このため、河口の付替を行い、河口地域の浸水被害を解消した。

その後、昭和57年9月、61年8月、平成3年9月、11年7月と連続して洪水に見舞われ各所で甚大な被害が生じており、現在はその対策として未改修区間の堤防の整備、掘削・護岸工事等を進めている。また、近年は親しみやすい自然豊かな川づくりを目指し、平成4年度に大宮町（現常陸大宮市）との共同事業により辰ノ口地区において延長1,300mの桜つつみモデル事業、平成6年度には魚ののぼりやすい川づくりとして栗原床固の全面魚道改築工事等の環境整備事業も実施している。

昭和33年には、20年の治水の歩みを記念して、当初起工式が行われた場所に久慈川改修記念碑が建立された。

久慈川改修記念碑

久慈川の本格的な改修工事は昭和14（1939）年に始まった。それからの20年の歩みを記念して、当初起工式をおこなった場所に昭和33年（1958）記念碑が建てられた。幸久橋と水郡線久慈川橋梁に挟まれた左岸（常陸太田市）の堤防上にある。碑文は洪水被害の歴史、久慈川改修期成同盟会結成から以降の工事進捗の様子が記され、新たな決意の言葉で結ばれている。碑面上部には「恵澤無窮」（恵み多き沢、窮まりなし）の四文字が刻まれている。



久慈川改修記念碑(常陸太田市)

(一) 第七百七十九号 日 6 は い (日曜日) 4 月 27 日 三十三号



交通線漸次恢復へ

徹宵の復舊作業に 更に上野岩間開通

水戸迄には尙四、五日要せん

【本報水戸二十七日電】東北地方の被災地では、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。上野岩間線は、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。上野岩間線は、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。

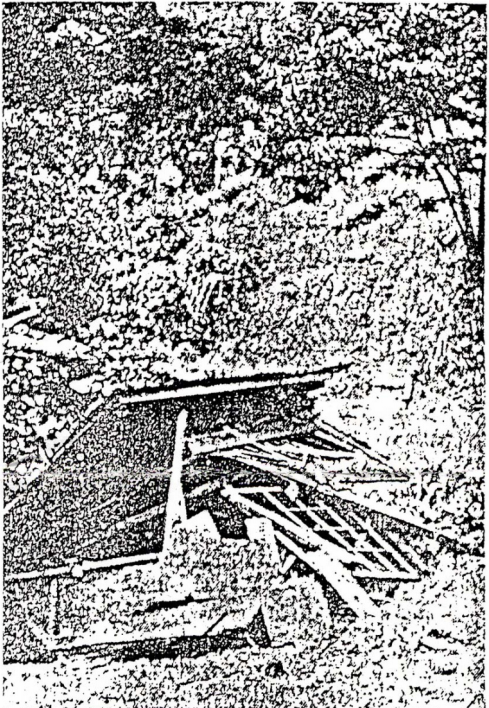
水郡線見込立たず

【本報水戸二十七日電】東北地方の被災地では、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。水郡線は、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。

轟然たる水の奇襲

太田地方の被害激甚

【本報水戸二十七日電】東北地方の被災地では、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。太田地方は、被災後三週が経過し、復舊作業は着々と進んでいる。特に交通線の復舊は、被災者の生活に直結する重要な課題となっている。



太田地方の惨状

田村の人家が流出西山等附近の桃源橋に引懸り太田町消防組決死の被復作業下は太田町埜町東坂縣道崖にある人家の倒壊

上は太田町東田圃を流れ行く人家、中は久慈郡警

◀▲昭和13年6月28日台風による大洪水の被災状況を報じた新聞記事。

(「いはらき新聞 昭和13年7月3日付」より)



◀昭和61年8月の台風10号による被災状況 (常陸太田市額田地区付近)

(昭和61年8月撮影)

図 3-3 水害による被災状況